

823-1 (濟)

俳諧資料カ一下

年代	文政末
編者 (筆者)	五竹庵子雲
書名	草紙
備考	

和物

(下垣内蔵)



花道翁
一
只之と茶の



今や能諧乃道海内
満る 祖あり徳と
まゝの風張作く長州
河郡舟木や東指る海
たかめ指乃兩子正風
く流るー 海ありー
永世不朽の碑を崇め

を魂と交ふとめて同雅
乃崇むとれんとたり其
地やあま蒼海臨くはく
りふ舟とほのくー 乃
たかめ指乃兩子正風
ハ陽宮きく指乃ありて社弘の
清風おのりー 母墓を
拂ふ同雅の地なり子

眼のあつり一葉おはせ

まはまき詠のゆかり

候り此地より飾乃髪を

顔も折くはなまき

草と碑面よまき

五作唐の子琴く

~~~~~

一葉に幾代を光あ おのむ  
子琴

魂うつり時一十月丸ま  
め輪

色心船よまき陸乃連乃  
東指

森とあまやくすか  
霍子

垣とあまやれくま  
菟好

探し入らぬむ  
里笑

候りてあま思髪よ  
素柳

ふもぬれさあ  
其夕

あはしめ仔細の湯柳の人形敷 柳屋  
礼堂正しき松乃内藤正 可松  
む解を活あむさもあきさ之く 文海  
縁もり詩字も象 晴 五葉  
砂利きさなはらぬすなり坂 南枝  
鳴もろろ子止し一交陣 如流  
店賣の茄子もたさぬ雨都合 甚友  
つらぬ眼を泣く母へ孝行 琴凡

あはしめ仔細の湯柳の人形敷 柳屋  
礼堂正しき松乃内藤正 可松  
む解を活あむさもあきさ之く 文海  
縁もり詩字も象 晴 五葉  
砂利きさなはらぬすなり坂 南枝  
鳴もろろ子止し一交陣 如流  
店賣の茄子もたさぬ雨都合 甚友  
つらぬ眼を泣く母へ孝行 琴凡  
あはしめ仔細の湯柳の人形敷 柳屋  
礼堂正しき松乃内藤正 可松  
む解を活あむさもあきさ之く 文海  
縁もり詩字も象 晴 五葉  
砂利きさなはらぬすなり坂 南枝  
鳴もろろ子止し一交陣 如流  
店賣の茄子もたさぬ雨都合 甚友  
つらぬ眼を泣く母へ孝行 琴凡  
あはしめ仔細の湯柳の人形敷 柳屋  
礼堂正しき松乃内藤正 可松  
む解を活あむさもあきさ之く 文海  
縁もり詩字も象 晴 五葉  
砂利きさなはらぬすなり坂 南枝  
鳴もろろ子止し一交陣 如流  
店賣の茄子もたさぬ雨都合 甚友  
つらぬ眼を泣く母へ孝行 琴凡

右巻終り

出度家信書(白紙)

あつて四つあつて

各詠探頭

啼しつゝきんわつや舟橋舟木 夕影  
 橋端てすけまき月や冬木之 夜露  
 乙るも清き月情のきまは 五葉  
 意せし可やキナナニ 小曲なき 未容

川の流よきまき少言の舟 明作 里耕  
 埋せぬ森まにまはし 枕もと 別巻の 文法  
 縁しよまはし う依 雀子  
 枯草やきんわつ 夜の文あり 未柳  
 月の入あるよきあり 尾紙暗 柳窓  
 本松の夜あり 月をそれと 一の松  
 荒磯よ碇あり 浪やきんわつ ぬ流

温泉北町の下 踏音よおふ  
 子音啼ーや管の月の音あり  
 津あきよふむ垣やきれ梅  
 音垢離の泣えねふ音部ふ  
 風ー推心あゝ枯野ー  
 破さるゝ音あてきー 鈴押 東揚  
 松の勢ハ音ーお音あり 賑あふ  
 冬木立松吹音ハ音ありー 子琴

文通

雨とれてるまよふ  
 稚子啼ーや梅の音よ音  
 岩の音あゝー木音の音  
 葉の音よぬー音の音  
 江の音わよ別て音の音  
 江の音わよ別て音の音  
 帰あー音と音ー音と音

沼井 二  
山坊  
市島  
時智

花は扇の如く無あめ柳の雨 巴流  
 高麗の海に花の——と行く那 此花  
 鳴りて花の送る心 移りや夕陽西 咲け  
 うららかなる更けりや春の香 止花  
 草は花やまの地のぬ境目滿 呂化  
 煙まのまれば柳の中や一の家 又甄  
 夕影や薄きまのあけろ機 里芳  
 藤の葉もは花の移りぬらみ 甄恒

多作のうららかなる花の香の目 水戸崎 若石  
 ありそすまのまの移りては花の香 ぬ花  
 草は花の移りぬらみ 水戸崎 若石  
 青あまの軒もあけまの移りては花の香 ぬ花  
 柳は花の移りぬらみ 水戸崎 若石  
 花は花の移りぬらみ 水戸崎 若石  
 花は花の移りぬらみ 水戸崎 若石  
 花は花の移りぬらみ 水戸崎 若石

茶心下律 維声

たゞは美しとて何あり 郭萩 松 菴 連 長史

物に寂とくしあや 輝れ 雨 芳州

萩とて 福と何あり 夕の月 為三

錦等 松も 日夜 感とく 柳 主藤

かき 三つ 死と 思ふれ 雖も 化家

おの 響き けり 柳の 南 甘柳

福妻れ たりて なる 松 記之

物にれ 菴と 集め 雲と 柳 宝室

枯葉も きたり あり 雲れ 柳 老翁

露と 柳に 吹れ けり 雲と 素智

舟に 植て 存る けり 柳と 琴流

出て くれ 月と 感と 時雨 素水

出入り 声と 響き 柳に 打声 一采

露の 河と けり 柳と 雲れ 雨 青流

柳の 雲れ 声と 響き 柳と 雲れ 雨 芳雨

園の産は是れも明や露一しれ 松古  
山茶花の香氣は合くつり 佳也  
香柄や枝こほあゝ美少年 可右  
怒る者の心〜〜〜 賈乙  
平〜〜〜雨の泣もき〜〜 喜海  
一室ありてあまのまぢり牡丹在 紫二

湖〜と湖志は〜一郭一公 聴松居

あゝあゝえ

老々老の

揚子江

徐風居

又改六未のり

蕉門書林

皇都寺町通二條  
橘屋治兵衛梓

